

同志社大学神学部の歴史

同志社は本年で創立 145 年を迎えた。1875 年、近代日本の黎明の時期に、新島襄はキリスト教精神に立脚し、良心の全身に充満する人間の育成を志して、京都に同志社英学校を興した。その翌年、この「本科」とは別に、神学を専門的に学ぶ「余科」（現在では大学院に相当）が設立された。

1888 年、「同志社大学設立の旨意」が新島襄によって公表され、1920 年の大学令による認可が得られるまで、大学設立のために多くの努力が傾注された。この間、神学部は専門学校令による「同志社神学校」、また同令による「同志社大学神学部」としてその地歩を固めた。1920 年、大学昇格実現により「同志社大学文学部神学科」となったが、この神学科は 1948 年、新学制によって他の神学校の一部が大学に昇格するまで、本邦唯一の大学レベルにおける神学教育の機関であった。なお、専門学校神学部は 1937 年まで大学神学科に併置されていた。

1948 年、文学部神学科は独立して「神学部」となり、一学部を形成することとなった。1950 年、新学制施行により同志社大学は大学院を有する 4 年制大学となり、神学部もこれに伴い、学部の上に、修士課程（聖書、歴史、組織神学の 3 専攻）、1953 年に博士課程（歴史神学専攻）が設置され、現在では、博士課程（前期課程）および博士課程（後期課程）となって、大学院神学研究科を有する神学研究教育機関として整備されるにいたった。1999 年より学科名を明示し、「神学部神学科」となった。2005 年から大学院博士課程（前期、後期課程とも）に一神教学際研究コースを設置した。2007 年には大学院を再編し、博士課程（前期課程）と博士課程（後期課程）にそれぞれ 1 専攻（神学専攻）を設置した。

神学部は初期の卒業生の中からすでに近代日本の精神界・思想界を指導する牧師、神学者、思想家、教育者、社会事業家を輩出した。これは創立当初から神学部の学問的水準が高度なものであったことを物語る。新島襄、J. Davis、D. Learned などの諸教授によって築かれた学問的基礎は、つぎつぎに加わった内外の優れた学者によって一層ゆるぎないものとなった。20 世紀に入って、日野真澄、芦田慶治両神学部長の時期に神学部の学的充実がはかられ、つづいて、大塚節治、富森京次、本宮弥兵衛、さらに有賀鉄太郎、魚木忠一などが顕著な貢献をなし、同志社の神学的思惟は深く日本の土壌に根を下ろすにいたった。第二次大戦後、大下角一を神学部長として迎え、実践面が強調され、山崎亨、高橋虔両部長の時代には、世界神学教育基金及び内外の後援者の好意により新神学館建設の計画が進行、1963 年に竣工し、研究教育上の便宜が大いに増進されることとなった。60 年代の後半においては、大学と社会の在り方をめぐる基本的な問いかけがなされた。2003 年から、従来のキリスト教研究にイスラーム研究とユダヤ教研究を加えることにより、研究教育の対象を中東生まれの 3 つの一神教に拡大した。神学部では、現在も神学の在り方を再検討しながら、明治以来の伝統に立ち、これを批判的に克服しつつ、新しい方向をめざして努力している。

大学の学部においてはキリスト教などの宗教を基盤とした広い教養人を輩出することを主眼とし、大学院においては、キリスト教会やキリスト教の諸機関において働く人材やキリスト教・イスラーム・ユダヤ教の研究者など、広い意味での宗教に関するプロフェッショナルの育成をめざしている。

目指すべき人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

— 神学部 —

目指すべき人材像

本学部は、人類が作り上げ蓄積してきた、生きるための知恵である宗教を学問的に研究することを通じて、広く深い人間理解と知的洞察力を身に付けた教養人の養成を目指している。具体的には、企業人・公務員、あるいはキリスト教会・福祉・教育・研究・国際交流などの各分野でグローバルに活躍できる人材を育成することを目的としている。

ディプロマ・ポリシー

以下の資質・能力を備えた学生に学士（神学）学位を授与します。

（知識・技能）

宗教、とりわけキリスト教、イスラーム、ユダヤ教という 3 つの一神教とその世界に関する諸問題の本質を、人間・言語・歴史・文化・社会に対する客観的考察（調査と文献批評）を通して理解できる。

（思考力・判断力・表現力）

宗教、とりわけキリスト教、イスラーム、ユダヤ教という 3 つの一神教とその世界に関する諸問題を発見・解決するために必要な知的洞察力や学問的方法論や語学力を運用できる。

（主体性・多様性・協働性）

宗教、とりわけキリスト教、イスラーム、ユダヤ教という 3 つの一神教とその世界に関する諸問題を積極的に発見し、その適正な解決策を学問的に探究できる。

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、以下のカリキュラムを設けます。

宗教を学問的に研究することを通じて、広く深い人間理解と知的洞察力を身に付けたグローバル教養人を育成するために、必修科目及び選択科目 1～6 類によって構成されるカリキュラムを設置する。

必修科目では、宗教を学問的に研究するための基礎知識・技能・態度を（2 単位）、選択科目 1 では、宗教、とりわけキリスト教、イスラーム、ユダヤ教という 3 つの一神教とその世界を理解するために必要な専門的知識を（68 単位以上）、選択科目 2 では、これらの宗教とその世界を理解するために必要な英語の実践的な運用能力を（6 単位以上）、選択科目 3 では、英語以外の外国語の基礎的な運用能力を学ぶ（8 単位以上）。

上記を補完・強化する授業科目を選択科目 4～6 に配し、関心と目的に応じて必要な知識・技能・態度を幅広く習得する（36 単位以上）。選択科目 6 では、幅広い教養を形成するために、全学共通教養教育科目、日本語・日本文化教育科目、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、早稲田大学交流協定科目、テュービンゲン大学 IES 科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目を配す。

必修科目

宗教を学問的に研究するために必要な基礎的知識・技能・態度を習得することを到達目標とし、少人数クラス（分級）の形態を取り入れながら文献批評と調査（フィールドワーク）を中心とした授業形態をもつ（2単位）。なお、必修科目は、学生の自由度を保障し、主体的・能動的学修への自立化を促進するために、必要最小限に止める（知識・技能、主体性・多様性・協働性）。

選択科目1

・各専門分野の「1年生基本科目」を設置する（知識・技能）。これらの科目は、宗教、とりわけキリスト教、イスラーム、ユダヤ教という3つの一神教とその世界を理解するために必要な基本的知識の習得を到達目標とする。また、「1年生基本科目」のなかに、アカデミック・ライティングを設置し、論文やレポートを書くために必要な基本的技能や知識を習得することを到達目標とする（知識・技能）。

・配当年次を2年又は3年生以上とする演習形式の科目を設置する。これらの演習科目は、上記の3つの宗教とその世界が直面する諸課題を理解するために必要な専門的知識・思考技術を習得すること、これらの諸課題を学術的・科学的見地から分析・表現する能力を習得すること、そしてその世界に関する諸問題を主体的に発見しその適正な解決方法を学術的に探究・発表できることを到達目標とする（思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）。

・キャリア・ガイダンス・セミナーを設置する。宗教を学問的に研究し、人間理解と知的洞察力を身に付けたグローバル教養人としての市民意識を育み、主体的に就職活動の準備ができることを到達目標とする（主体性・多様性・協働性）。

選択科目2

・全学共通教養教育科目の「英語」に加え、神学的素養と思考技術、基礎的な文献批評の方法を習得するために「神学英語」（基礎、講読）を設置する（知識・技能、思考力・判断力・表現力）。

選択科目3

・全学共通教養教育科目の「英語以外の外国語」に加え、「神学ドイツ語」「アラビア語」「聖書ヘブライ語」「現代ヘブライ語」「新約ギリシア語」を設置する。これらの語学科目を通して、キリスト教神学思想の素養や思考技術、そしてキリスト教、イスラーム、ユダヤ教の経典（聖典）を原語で読むことができる技術と解釈の多様性を受容する姿勢を身に付けることができるようになる（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）。

選択科目4

・健康についての高度な理解を持ち、身体活動を通じて健全な自己を育成することを到達目標とする保健体育科目である。

選択科目5

神学と他の学問領域に跨がるテーマを研究し、学際的な視野を開発することを到達目標とする学際科目である。

選択科目6

関心と目的に応じて必要な知識・技能・態度を幅広く習得するための科目群である。カリキュラムの高い自由度を生かし、主体的・能動的学修への自立化を育成することができるようになる。幅広い教養の形成を通して、グローバル社会が直面する諸問題を理解し、その社会における市民意識を育むことができるようになる（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）。